



犬山城のしゃちほこ（平成30年制作）

丸亀城のしゃちほこは丸い体形をしている
(写真提供：丸亀市教育委員会)

犬山城にしゃちほこあり

犬山城マイスター！たかまる。（関 隆二）

お城につきもののしゃちほこ。もちろん犬山城天守にもしゃちほこが上げられています。今回は、犬山城のしゃちほこについて少しだけひも解いてみましょう。

◆ 平成29年7月、落雷により破損

いまから3年ほど前の夏、東海地方に襲った集中豪雨の影響で犬山にも大雨と落雷がもたらされ、各地で被害がでました。そのときの雷が犬山城天守に落ち、北側のしゃちほこ一尾が大破してしまいました。国宝天守に雷が落ちてしゃちほこが破損

したことは大きなニュースとして取り上げられたのを覚えています。翌、平成30年2月にはしゃちほこが新調されて天守に上げられました。

歴史を遡ってみます。現在残されて

いる記録によると犬山城のしゃちほこは少なくとも5回取り換えられていることがわかっています。承応2年（1653）、享保16年（1731）、宝暦2年（1752）、昭和39年（1964）、平成30年（2018）です。

大風・台風などの破損や天守修理による新調などのためです。その

いずれにしても大事に至つていなのはしゃちほこが守つてくれているおかげなのかもしれません。

今回の落雷でもしゃちほこは大破してしまいましたが、火事などにならなくて本当に良かったと安どしましたね。

◆ 犬山城のしゃちほこの特徴

犬山城のしゃちほこと他の城郭のものと比べてみると、おもしろいことがわかりました。

①スラッシュしたいで立ちであること
②尾ヒレがきれいな二股形であること
③胴体が一体型と分割型の2種類あること

まず体型について。松山城（愛媛県松山市）や丸亀城（香川県丸亀市）などのしゃちほこはざんぐりむつくりな体型ですが、犬山城のはスラッシュとしています。これは意外に特徴的なこともあります。姫路城などはスラッシュとしていますが、犬山城のがもつとスラッシュとして印象的です。

次に、尾ヒレについてですが、これが最大級の特徴といつても良いかもしれません。尾ヒレは松山城のようにもともとは扇型が主流でしたが、時代が下るにつれて二股形になつていったようです。しかし、犬山城のようなきれいな二股形になつてている



松山城のしゃちほこの尾ヒレは扇型
(写真提供：松山城総合事務所)



犬山城には「宝暦」「昭和」「平成」の3時代のしゃちほこが保存されている

のは大変珍しいです。体系と相まつて凛とした姿となっています。

最後は胴体の作り方です。昭和の大修理（昭和36～40年）に2尾のしゃちほこが新調されましたが、胴体は一体型で作られました。江戸時代・宝暦のしゃちほこは分離型となつており、先日作られたものはこれに倣つた分離型で作られました。

現在、南側は昭和のしゃちほこ、北側は平成のしゃちほこが上げられており、分離型と一体型の2種類が同時に上げられている大変珍しい状

態となっています。

このように、犬山城のしゃちほこは他には見られないような特徴があり、大変珍しく、それがまた犬山城らしさを醸し出しています。しゃちほこ一つ取ってみても、お城それぞれで個性があることがよくわかりますね。今後お城に行くときには、しゃちほこにも注目してみてはいかがでしょうか。